

氏名	辻 尚 志
学位(専攻分野の名称)	博士(医学)
学位授与番号	博 乙 第 2308 号
学位授与の日付	平成 3 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	大動脈弁閉鎖不全症における左室心筋の組織構造変化と安静時心機能との関連に対する研究
論文審査委員	教授 原岡昭一 教授 菅 弘之 教授 古元嘉昭

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

大動脈弁閉鎖不全症20症例を対象として左室心筋の組織像と安静時心機能との関連を検討し、以下の結果を得た。

なお、組織像の評価は、fibrosisの程度と心筋細胞内の微細構造変化をスコア化し、それぞれLM-Score, EM-Scoreとし、さらにEM-Scoreの中でMyotibrilの変化にLM-Scoreを加味しMyo+LM-Scoreとした。術前心機能諸量は左心室造影より求め、それぞれと前述の各Scoreを対比検討した。

その結果、EM-Scoreと術前心機能諸量には有意な相関は認められなかったが、LM-ScoreはMax dv/dt, (D/L)と各々良好な相関を認めた。またMyo+LM-ScoreもEF, ΔD と各々良好な相関を認め、AR症例の安静時心機能のうち拡張能・形態的対応はfibrosisの程度と、収縮能はmyofibrilの変化およびfibrosisの両者と密接な関係があり、AR症例における安静時心機能と心筋因子との関連が証明された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は大動脈弁閉鎖不全症を対象として、左室心筋の組織像と安静時心機能との関連を検討し、拡張能は線維化の程度と、収縮能は心筋細胞の変化と線維化に密接な関係があることを明らかにした価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。